

平成19年度独立行政法人福祉医療機構  
(長寿・子育て・障害者基金) 助成事業  
事業報告書

Web 学習を用いた知識学習による  
認知症ケアの理解向上のための啓発事業

報 告 書

平成 20 年 3 月

社会福祉法人 浴 風 会  
認知症介護研究・研修東京センター

## はじめに

認知症は慢性、進行性に症状が重くなっていくのが普通です。自立して生活し続けることが難しくなっていきます。進行するにつれて介護が必要になります。しかし、認知症の人をそれぞれの生活の場で介護していくことは大変困難なことです。進行につれて介護を受けるほうの認知症の人の意識や感情が変化し、介護する人との間に認識のずれが生じます。日々の生活の中でそれが常に軋轢となり、認知症の症状をさらに複雑にしていきます。

巷に認知症の理解や介護のための本や雑誌は豊富に出回っています。それらを参考にしたり、すでに介護を始めている知人やかかりつけの医師に尋ねたりして毎日悪戦苦闘している家族もあるでしょう。とにかく認知症の人を抱え、一緒に生活するというのは多くの人にとっては皆、初めての経験なのです。どうやったらいいのか、どう対応したらよいかに迷っています。介護のプロである施設介護者にとっても施設の利用者一人一人は皆初めての方たちなのです。

こうした状況から、認知症の人の示す症状の理解や認知症の人の示す様々な行動と精神の変調にどう対応するかという事柄を、優れた経験や医学的観点を参考に、事例学習をとおして会得してもらおうという狙いから、平成 18 年度から本調査研究事業が始まりました。それには一般に普及しているインターネットを使い、双方向のやりとりで学習を深めるやり方が目的にかなっているとして「Web 学習を用いた知識学習による認知症ケアの理解向上のための啓発活動事業」を始めたいきさつがあります。

本研究事業は平成 19 年度で 2 年目に入りました。Web 学習という方法を使うノウハウも 1 年目でクリアし、平成 19 年度は実際に事例を提示しながらのケーススタディをいくつか追加しました。シナリオはよくできていると思います。実際に学習に参加された方々からは内容や学習時間等についてのアンケート回答も寄せられ、好評を得ています。

認知症の人の事例研究に加えて、日々の介護で問題となる認知症の人のリスクマネジメントも Web 学習に加えています。平成 19 年度はリスクマネジメントの中心となる転倒・転落事故にどう対処するか、という問題意識から認知症介護研究・研修東京センターで開発した転倒・転落事故の事前予測尺度の改良型を、実際に用いた結果やその予測の精度を報告書に載せるとともに転倒・転落予測尺度を広くインターネット上に公開し、使い勝手やその利用の仕方を調査することとしました。

特養ホームや老健施設での転倒・転落調査と平行して現場ではどのような転倒予防

措置をおこなっているかの実態調査も行い、その実情を明らかにしました。この報告書には平成 19 年度の調査研究の概要を掲載しましたが、学術報告書として残すという形式から内容的に難解な語句や専門用語が多数使われています。不明な点や難解なところ、疑問点などがあればどうぞ遠慮なくお問い合わせください。

認知症介護研究・研修東京センター  
副センター長兼研究部長  
本事業委員長

須貝 佑一

## 目次

はじめに

## 目次

事業全体の経過	1
I Web 学習コンテンツ作成事業	3
事業要旨	5
1. 事業の目的	7
2. 事業の経過	8
3. Web 学習コンテンツの作成	10
4. Web 学習コンテンツの新規コンテンツのための元原稿作成	25
5. Web 学習コンテンツ評価調査	29
6. まとめ	44
II 認知症高齢者転倒評価尺度検討事業	55
事業要旨	57
1. 目的	59
2. 方法	60
3. 結果	63
4. まとめ	101
資料	103

委員名簿

## 事業全体の経過

### 1. 委員会ならびに作業部会の設置

本事業を推進するために委員会ならびに作業部会を設置し、事業を実施した。

委員会は、平成19年5月21日、平成20年2月13日、平成20年3月14日の3回開催した。

作業部会については、Web学習コンテンツ作成事業のための作業部会ならびに認知症高齢者転倒評価尺度検討事業のための作業部会を設置した。前者は4回の作業部会を、後者は3回の作業部会を実施した。

### 2. Web学習コンテンツ作成事業の概要

Web学習機能を活用した認知症の知識を一般に啓発することを目的とした。

Web学習コンテンツを3テーマ12コンテンツ作成し、インターネット（認知症介護情報ネットワークの「Web学習による認知症基礎講座知ってなるほど！塾」）上に公開した。Web学習コンテンツの2テーマについては、評価調査を実施し、一定の有用性を示した。さらに、新しいWeb学習コンテンツの元原稿を作成し、ナレーション原稿と絵コンテを作成した。

事業内容を広報するための啓発普及活動として、第8回認知症ケア学会（盛岡市）ならびにIPA 2007 Osaka Silver Congress（大阪市）にてポスター発表を行った。

### 3. 認知症高齢者転倒評価尺度検討事業の概要

認知症高齢者を対象とした転倒転落の危険を予測する尺度の信頼性の検討と尺度の普及を図ることを目的とした。

転倒危険予測尺度（FRAT-DESK）を作成し、転倒事故調査ならびに尺度に関する評価者内信頼性の検討を行った。調査からFRAT-DESKが転倒予測に適した尺度であり、評価者の信頼性にも一定の評価が得られた。

事業内容の啓発普及のために、認知症介護情報ネットワークにFRAT-DESKを掲載し、宣伝普及を行った。

### 4. 研究全体の成果

Web学習コンテンツの作成、FRAT-DESKの作成と信頼性の検討を行い、普及啓発のためにインターネット上に掲載した。